

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患等政策研究事業（免疫アレルギー疾患等政策研究事業（移植医療基盤整備研究分野）））））  
分担研究報告書

ドナー安全情報の収集・解析・現場への情報発信に関する研究

研究分担者 飯田 美奈子 愛知医科大学医学部造血細胞移植振興寄附講座 講師  
研究協力者 小寺 良尚 愛知医科大学医学部造血細胞移植振興寄附講座 教授

研究要旨

ドナー安全の重要性を医療現場のみでなくドナー本人にも認識させる目的で、アジア太平洋造血細胞移植学会(Asia-Pacific Blood and Marrow Transplantation :APBMT)に所属する各国に向けて日本で使用されているドナー手帳の英訳版を配布した。

A. 研究目的

昨年までの研究の結果、アジア太平洋地域におけるドナー安全性に対する重要性はまだ浸透していないことが明らかとなった。わが国では 2010 年より日本造血細胞移植学会及び骨髄移植推進財団が「骨髄・末梢血幹細胞ドナー手帳」を作成し造血幹細胞ドナー一人ひとりに無償配布することによって、ドナー自身が造血幹細胞移植に対する理解を深め、提供前後の自身の健康状態を把握したり、その記録を残すことで幹細胞提供の安全性を高めてきた。そこで、今回この手帳をアジア各国にも普及させることを目的に日本語版の手帳を英訳した。

B. 研究方法

日本語版ドナー手帳は 1. ドナー情報・記録、2. 医療機関への連絡方法、3. 骨髄または末梢血提供スケジュール、4. 最終前後および当日の注意事項、5. 起こりうる合併症、6. 団体傷害保険についての各項目につき網羅的に記載されており、基本的にこれらの内容に沿って英訳した。各国ではドナーに配布されるときには、英語はさらに現地語に翻訳されるため極力平易な表現となるよう心がけた。

C. 研究結果

Bone Marrow & Peripheral Blood Stem Cell Donors' Booklet

D. 考察/E. 結論

アジア太平洋地域ではここ数年バングラディッシュ、ミャンマー、モンゴル、スリランカなどの新興国が造血幹細胞をスタートさせ、年々その数を増やしている。それは同時にドナーの数も増えること

を意味しているが、これらの国々が患者と同時にドナーの安全性にまで十分配慮するのは難しいことが予想される。わが国をはじめとしたすでに多くの移植を経験している国々が、その経験を生かし、ドナーに起こりうる合併症の存在や採取後のフォローアップの重要性をこれらの国々に情報発信するのは重要な責務であると考え。今回英訳手帳という形でわが国で行われているドナー安全に対するシステムをアジア各国に対して情報発信したが、この他にもウェブや SNS を用いた情報の共有などあらゆる手段を駆使して世界全体としてドナーの安全性の確保に努めることが重要であると考えられた。

F. 研究発表

1. 学会発表
  2. 論文発表
- なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし